

エゾシカ捕獲事業実施から3年目を迎え ～捕獲事業の経過と課題～

北海道森林管理局 日高南部森林管理署
御園西森林事務所 一般職員 後藤 正等
奥静内森林事務所 森林官補 坂口 拓

1 課題を取り上げた背景

日高南部森林管理署が所在する日高地域においては、エゾシカが2000年頃から顕著な増加傾向を示し、近年では道内で生息密度が高い地域のひとつとなっています。また、日高地域は軽種馬の産地として有名ですが、エゾシカによる牧草採食などの被害も発生しており、エゾシカの個体数削減は地域の課題となっています。このような背景から、今後の国有林におけるエゾシカ捕獲対策及び捕獲手法の検討・検証を目的として、当署ではエゾシカの誘引捕獲事業を平成27年度から実施しており、平成29年度で3年目を迎えました。この間の捕獲事業の取組状況と今後の課題を考察しました。

2 取組の経過

事業地は、道道の通行止により一般狩猟者の入林が出来ない、エゾシカの生息密度の高い地区を選定しました。

捕獲手法はモバイルカリングを採用し、林道の除雪後餌付けにより誘引したエゾシカを猟銃捕獲しました。平成28年度からは、エゾシカの出没状況を把握し捕獲の参考とするため、一部のエサ場に自動撮影カメラを設置しました。また、新たな捕獲手法の検証や夜間時の捕獲を目的として、小型囲いワナによる捕獲も併せて実施しました。

3 実行結果

捕獲頭数の実績については表1のとおりです。2年目から小型囲いワナを併用した結果、捕獲総数は1年目から3年目にかけて増加しました。ま

た、1回当たりの平均捕獲頭数も同様に増加し、捕獲効率の向上も見られました。回収されたエゾシカは、請負事業者の関連企業にて食肉加工されており、捕獲個体を地域商品として有効活用することも出来ています。

表1 捕獲実績

	捕獲出動回数 (回)	捕獲総数 (頭)	平均捕獲頭数 (頭/回)
平成27年度	27	43	1.6
平成28年度 (うち囲いワナ捕獲数)	27	72 (8)	2.7
平成29年度 (うち囲いワナ捕獲数)	23	75 (17)	3.3

4 考察

2年目以降に捕獲総数・捕獲効率が向上した理由として、小型囲いワナの併用があげられます。また当該事業地はエゾシカの生息密度が高いことから、エゾシカのエサ場への出没が減らず、スレジカ（銃で撃たれた経験などから高い警戒心を持ったシカ）による影響が少なかったことも考えられます。そして、1～3年目とも契約した請負事業者が同じだったため、モバイルカリングへの習熟・経験を積んだことも要因になったと思われます。

今後は、更なる効率的な捕獲方法の模索や、捕獲効果の検証が課題となります。また当署管内では、北海道がエゾシカ捕獲事業を実施しているほか、管内各町においてもエゾシカ対策に取り組んでいることから、引き続き実施状況などの情報をお互いに交換し連携を図ることが必要です。